

最終更新日:2006年1月7日

協会TOP 保健部TOP

健康・医療の旬情報

- >>>結核と感染症予防法 **NEW**
- >>>健診と検診と胸の検査 **NEW**
- >>>過去の情報

健康診断のご案内

- ▶▶ 地域保健
 - 基本健康診査
 - 各種がん検診
 - 骨粗鬆症検診
- ▶▶ 職場保健
 - 定期健康診断
 - 特殊健康診断
 - 生活習慣病予防健診
 - 各種がん検診
- ▶▶ 学校保健
 - 結核検診
 - 心臓病検診
 - 貧血検査
 - 尿検査
- ▶▶ 新生児・乳児の検査
 - マスキリーニング
- ▶▶ 個人向けの検査
 - 郵送大腸がん検診

その他

- 特殊健診逆引きガイド
- 郵送大腸がん検診のお申し込み
- 健康診断のお申し込み(事業場様)
- 健康診断のお問い合わせ
- 料金表(PDF)
- 論文
- 広報誌
- 関連リンク集

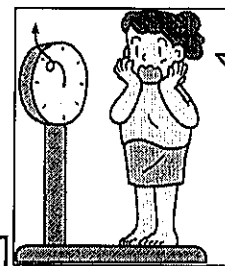


(財)山口県予防保健協会 保健部
 〒753-0811
 山口市吉敷3325番地1
 TEL 083-933-0008
 FAX 083-923-5567
 netadmin@yhoken.jp

BMI 法定項目

◇検査の説明

BMI = 体重(Kg) ÷ [身長(m)]² で算出し、身長とのつりあいがとれている体重かどうかを調べます。22~23が、最も健康的とされています。



◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
18.5~24.9	***	25.0以上 0~18.4	***	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:単純性肥満症・続発性肥満症など

[← Back](#)

最終更新日:2006年1月7日

協会TOP 保健部TOP

健康・医療の旬情報

- >>>結核と感染症予防法 [NEW](#)
- >>>健診と検診と胸の検査 [NEW](#)
- >>>過去の情報

健康診断のご案内

- ▶▶地域保健
 - 基本健康診査
 - 各種がん検診
 - 骨粗鬆症検診
- ▶▶職域保健
 - 定期健康診断
 - 特殊健康診断
 - 生活習慣病予防健診
 - 各種がん検診
- ▶▶学校保健
 - 結核検診
 - 心臓病検診
 - 貧血検査
 - 尿検査
- ▶▶新生児・乳児の検査
 - マスキング
- ▶▶個人向けの検査
 - 郵送大腸がん検診

その他

- 特殊健診逆引きガイド
- 郵送大腸がん検診のお申し込み
- 健康診断のお申し込み(事業場様)
- 健康診断のお問い合わせ
- 料金表(PDF)
- 論文
- 広報誌
- 関連リンク集

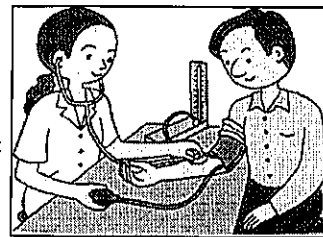


(財)山口県予防保健協会 保健部
 〒753-0811
 山口市吉敷3325番地1
 TEL 083-933-0008
 FAX 083-923-5567
netadmin@yhoken.jp

血圧測定 法定項目

◇検査の説明

心臓のポンプ作用により血液が全身に送り出される時に血管に与える圧力(血圧)を測定することにより健康状態を調べる検査です。心臓から血液を送り出すときに血管に与える圧力を最高血圧(収縮期血圧)、心臓がもとに戻って血液をためている間に血管に与える圧力を最低血圧(拡張期血圧)といいます。



◇基準値

	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
最高	90~139	140~149 89以下	150~159	160~179	180以上
最低	89以下	90~94	95~99	100~109	110以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:高血圧症・腎臓病など
 数値が低い場合:低血圧症など

[Back](#)

GOT 法定項目

◇検査の説明

肝臓や心筋に多く含まれる酵素で、からだの構成要素であるアミノ酸をつくる働きをしています。炎症や腫瘍、飲酒などの原因で臓器や組織が損傷すると値が上昇します。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~35	36~45	46~49	50~99	100以上

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝炎・肝硬変などの肝臓病 心筋梗塞

GPT 法定項目

◇検査の説明

ALT(GOT)同様、肝臓や心筋に多く含まれる酵素で、からだの構成要素であるアミノ酸をつくる働きをしています。炎症や腫瘍、飲酒などの原因で臓器や組織が損傷すると値が上昇します。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~35	36~39	40~49	50~99	100以上

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝炎・肝硬変などの肝臓病・心筋梗塞

γ-GTP 法定項目

◇検査の説明

たん白質を分解する酵素で、飲酒による肝障害に敏感に反応します。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~55	56~79	80~99	100以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝臓病・アルコール性肝障害

ALP(アルカリフォスファターゼ)

◇検査の説明

骨、肝臓、胆のう、腎臓に多く含まれており、これらの臓器が障害を受けると高値となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~339	***	340~449	450以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝、胆道系疾患・骨疾患・甲状腺機能亢進症《妊娠》

LAP(ロイシンアミノペプチターゼ)

◇検査の説明

ロイシンなどのたん白質を分解する酵素です。胆道から排泄されるので肝臓や胆道の病気を診断する手がかりとなります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~71	***	72~199	200以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:胆汁うっ滞・肝腫瘍・急性肝炎・肝道疾患・一過性肝炎

LDH(乳酸脱水素酵素)

◇検査の説明

糖がエネルギーに変わるときに働く酵素の1つです。全身のあらゆる組織細胞に含まれており、他の肝機能検査とあわせて判断されます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~229	***	230~349	350以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:肝疾患・心疾患・血液疾患

GHE(コリンエステラーゼ)

◇検査の説明

肝臓でしかつくられない酵素で、つくられた後は血液中に放出されます。これを調べることにより、肝臓の能力をみることができます。農薬中毒できわめて低値となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
180~440	***	81~179 441~699	80以下 700以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:ネフローゼ症候群・甲状腺機能亢進症・糖尿病・脂肪肝
数値が低い場合:肝臓病・肝細胞がん・農薬(有機リン)中毒

TP(総蛋白)

◇検査の説明

血清中のたん白は約100種類あり、これらの総称をいいます。からだの栄養状態をみる指標になります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
6.5~8.0	8.1~9.0	6.0~6.4	5.9以下 9.1以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:脱水症・高グロブリン血症
数値が低い場合:栄養不良・ネフローゼ症候群・肝障害

ALB(アルブミン)

◇検査の説明

たん白の1つで、栄養の摂取不良や吸収障害、炎症のときに低下し、全身状態の良否判定の参考となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
4.0以上	***	3.6~3.9	3.5以下	***

◇考えられる病気

数値が低い場合：炎症性疾患・肝障害・腎機能障害

A/G比

◇検査の説明

総たん白は主にアルブミンとグロブリンから構成されており、この比率で疾患を判断します。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
参考値				

◇考えられる病気

数値が低い場合：肝硬変・膠原病・ネフローゼ症候群

ZTT(硫酸亜鉛混濁試験)

◇検査の説明

血液中の蛋白の1つであるγ-グロブリンに異常がある時に変動し、肝機能検査の1つとして用いられています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~13.1	***	13.2~25.9	26.0以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：慢性肝炎・肝硬変・結核・リウマチ

TTT(チモール混濁試験)

◇検査の説明

血清中のγ-グロブリンやリポ蛋白の増加などにより高くなり、肝機能検査の1つとして用いられています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~6.8	***	6.9~14.9	15.0以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝炎・肝硬変

T.BIL(総ビリルビン)

◇検査の説明

赤血球のヘモグロビンが分解されてできる黄色い色素です。直接型と間接型があり、この2つをたしたものを総ビリルビンと呼びます。総ビリルビンと直接ビリルビンを測定することにより、黄疸の種類(溶血性か閉塞性か)を調べます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~1.1	***	1.2~1.9	2.0以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝炎、肝硬変などの肝臓病・溶血性貧血・胆汁うっ滞性黄疸・閉塞性黄疸

D.BIL(直接ビリルビン)

◇検査の説明

赤血球のヘモグロビンが分解されてできる黄色い色素です。直接型と間接型があり、この2つをたしたものを総ビリルビンと呼びます。総ビリルビンと直接ビリルビンを測定することにより、黄疸の種類(溶血性か閉塞性か)を調べます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~0.4	***	0.5~0.9	1.0	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：肝炎、肝硬変などの肝臓病・溶血性貧血・胆汁うっ滞性黄疸・閉塞性黄疸

HBs-Ag(HBs抗原)

◇検査の説明

現在B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
(-)	***	***	(±)(+)	***

◇考えられる病気

B型肝炎

HBs-Ab(HBs抗体)

◇検査の説明

過去にB型肝炎ウイルスに感染したか、またはワクチン接種を受けた場合に陽性になります。

◇基準値

陰性	擬陽性	陽性
(-)	(±)	(+)

HCV抗体

◇検査の説明

C型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べます。陽性の場合にはウイルスの存在を確認する精密検査が必要です。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
(-)	***	(±)	(+)	***

◇考えられる病気

C型肝炎

T-CHO(総コレステロール) 法定項目

◇検査の説明

血管の強化・維持に重要な働きをしています。また、胆汁や性ホルモン合成の原料となります。しかしこの値が高すぎると動脈硬化の原因となります。

◇基準値

対象	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
女性 (50歳以上)	150~219	220~239	240~259	149以下	260以上
その他	140~199	200~219	220~239	139以下	240以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:動脈硬化症・甲状腺機能低下症
数値が低い場合:肝臓障害・甲状腺機能亢進症

HDL-CHO(HDLコレステロール) 法定項目

◇検査の説明

いわゆる善玉コレステロールのことで動脈の内壁に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぐと考えられています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
40~99	100以上	35~39	***	34以下

◇考えられる病気

数値が低い場合:動脈硬化症・高血圧症・虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)

TG(中性脂肪) 法定項目

◇検査の説明

脂肪の1つでエネルギー源となりますが、余分なものは皮下脂肪として蓄えられます。血液中の中性脂肪が多くなりすぎるとコレステロールと同様に動脈硬化の原因となります。この項目は食事や飲酒によって検査値に影響がでます。最後の食事から採血までの時間によって判定が変わります(糖分のある飲料をとった場合も含みます)。

◇基準値

状態	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
空腹時 (食後10時間以上)	0~149	150~199	200~249	250以上	***
食後 (食後10時間未満)	0~199	200~249	250~299	300以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:動脈硬化症・肥満・糖尿病

β-LIP(β-リポ蛋白)

◇検査の説明

脂質がβ-グロブリンという血清たん白と結合して存在しているものです。この値が高くなると動脈硬化の原因となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~524	***	525~699	700以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:家族性高脂血症・動脈硬化症・虚血性心疾患

LDL-CHO(LDLコレステロール)

◇検査の説明

いわゆる悪玉コレステロールのことで、動脈硬化の危険因子とされています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
70~119	69以下 120~139	140~159	***	160以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:動脈硬化症

AI(動脈硬化指数)

◇検査の説明

次の計算式で求めます。

$$AI = (T-CHO - HDL-CHO) / HDL-CHO$$

この値が高いと動脈硬化になりやすいとされています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
参考値				

◇考えられる病気

数値が高い場合:動脈硬化症

RBC(赤血球) 法定項目

◇検査の説明

赤血球中のヘモグロビンは肺で酸素を受け取り、全身の各組織細胞で生じた二酸化炭素と交換します。赤血球数の減少またはヘモグロビン値が低下すると酸素の運搬能力が低下し、貧血をおこします。

◇基準値

性別	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
男	420~570	***	360~419 571~619	341~359 620以上	340以下
女	380~500	***	320~379 501~549	301~319 550以上	300以下

◇考えられる病気

数値が高い場合:多血症・心肺疾患
数値が低い場合:貧血・出血(子宮筋腫・消化管出血など)

HGB(ヘモグロビン) 法定項目

◇検査の説明

赤血球中のヘモグロビンは肺で酸素を受け取り、全身の各組織細胞で生じた二酸化炭素と交換します。赤血球数の減少またはヘモグロビン値が低下すると酸素の運搬能力が低下し、貧血をおこします。

◇基準値

性別	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
男	13.5~18.0	***	12.0~13.4 18.1~18.9	10.1~11.9 19.0以上	10.0以下
女	11.5~18.0	***	10.0~11.4 16.1~16.9	9.1~9.9 17.0以上	9.0以下

◇考えられる病気

数値が高い場合:多血症・心肺疾患
数値が低い場合:貧血・出血(子宮筋腫・消化管出血など)

HCT(ヘマトクリット)

◇検査の説明

血液全体に対する赤血球の体積の割合です。赤血球数・ヘモグロビン値と組み合わせて、貧血の種類を診断します。

◇基準値

性別	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
男	40.0～52.0	***	36.0～39.9 52.1～54.9	34.1～35.9 55.0以上	34.0以下
女	33.0～45.0	***	30.0～32.9 45.1～51.9	28.1～29.9 52.0以上	28.0以下

◇考えられる病気

数値が高い場合：多血症・脱水
数値が低い場合：貧血・出血

MCV(平均赤血球容積)

◇検査の説明

赤血球1個あたりの容積を示します。赤血球数とヘマトクリット値から求め、貧血の種類を決める指標となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
参 考 値				

◇考えられる病気

数値が高い場合：高色素性貧血・大球性貧血
数値が低い場合：低色素性貧血・小球性貧血

MCH(平均赤血球ヘモグロビン量)

◇検査の説明

赤血球1個あたりのヘモグロビン量を示します。赤血球とヘモグロビン値から求め、貧血の種類を決める指標となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
参 考 値				

◇考えられる病気

数値が高い場合：高色素性貧血・大球性貧血
数値が低い場合：低色素性貧血・小球性貧血

MCHC(平均赤血球ヘモグロビン濃度)

◇検査の説明

赤血球の体積あたりのヘモグロビン量を示します。ヘモグロビン値とヘマトクリット値から求め、貧血の種類を決める指標となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
参 考 値				

◇考えられる病気

数値が高い場合：高色素性貧血・大球性貧血
数値が低い場合：低色素性貧血・小球性貧血

GLU(血糖) 法定項目

◇検査の説明

生命活動を維持するエネルギー源として利用されています。糖尿病になると上がります。この項目は食事や飲酒によって検査値に影響がでます。最後の食事から採血までの時間によって判定が変わります(糖分のある飲料をとった場合も含みます)。

◇基準値

状態	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
空腹時 (食後4時間以上)	70~109	***	110~115 51~69	118~125 50以下	126以上
食後 (食後4時間未満)	70~139	***	140~179 51~69	180~199 50以下	200以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:糖尿病

数値が低い場合:高シンスリン血症・低血糖・肝疾患

HbA1C(ヘモグロビンエイワンシー)

◇検査の説明

赤血球中のヘモグロビンとブドウ糖が結合したもので、過去1~2か月間の血糖値のコントロール状態をみる目安になります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~5.5	***	5.6~5.9	6.0~6.4	6.5以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:糖尿病

PLT(血小板数)

◇検査の説明

出血を止める働きがあります。血液疾患の診断や出血しやすい人の原因の解明に役立ちます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
13.0~37.0	***	10.0~12.9 37.1~49.9	5.1~9.9 50.0~99.9	5.0以下 100.0以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:慢性白血症・多血症

数値が低い場合:血小板減少性紫斑病・再生不良性貧血・急性白血病

WBC(白血球数)

◇検査の説明

体内に侵入した細菌や異物を取り込み無毒化したり、抗体を作り感染などから体を防衛する役割があります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
35~90	***	25~34 91~149	21~24 150~199	20以下 200以上

◇考えられる病気

数値が高い場合:白血病・感染症・炎症

数値が低い場合:感染症・血液疾患

BUN(尿素窒素)

◇検査の説明

体内でエネルギーとして使われたたん白の燃えかすで、尿中に排泄されます。腎臓の機能が低下すると排泄されず血液中に増えていきます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~20.0	***	20.1~29.9	30.0以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：腎機能低下・腎不全

CRN(クレアチニン)

◇検査の説明

筋肉や脳に多く含まれるクレアチンという物質が代謝された最終産物で、腎臓の機能が低下すると尿中に排泄されず血液中に増えていきます。

◇基準値

性別	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
男	0~1.1	***	1.2~1.3	1.4以上	***
女	0~0.8	***	0.9~1.0	1.1以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：腎不全・尿毒症・慢性腎炎・うっ血性心不全

AMY(アミラーゼ)

◇検査の説明

すい臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、でんぷんなどの糖類を分解します。糖尿病患者や唾液腺疾患で高値となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
40~106	***	107~299 39以下	300以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：急性膵炎・慢性膵炎・腸閉塞・耳下腺炎

UA(尿酸)

◇検査の説明

細胞核の核酸の代謝によって生じた燃えかすで、この値が高くなると痛風の原因になります。プリン体を多く含む食品をとりすぎても値が高くなります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~7.0	***	7.1~7.9	***	8.0以上

◇考えられる病気

数値が高い場合：痛風・腎炎・腎結石

CEA(シーイーイー)

◇検査の説明

消化器がんのスクリーニングに広く用いられ、手術や治療後のがんの再発・転移などの発見に役立ちます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
5.0以下	***	***	5.1以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：大腸がん・膵臓がん・胆管がん・肺がん・食道がん・胃がん

TPA

◇検査の説明

体内の腫瘍組織にみられる特殊な蛋白で、正常な組織にみられないため、腫瘍マーカーとして用いられています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
70以下	***	***	71以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：胃がん・大腸がん・肝細胞がん・膵臓がん

AFP(α-フェトプロテイン)

◇検査の説明

妊娠早期の胎児にみられる血清たん白の1つで、通常成人の血液中には存在しません。肝がん・肝疾患の早期発見に役立ちます。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
10.0以下	***	***	10.1以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：原発性肝がん・肝炎・肝硬変

CA-19-9

◇検査の説明

消化器のがんの腫瘍マーカーとして広く用いられ、特にすい臓がんの診断に有効となります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
37以下	***	***	38以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：膵臓がん・胆のうがん・胆管がん・胃がん・大腸がん

CA125

◇検査の説明

卵巣がんに対して敏感に反応するため、そのスクリーニングや経過観察などの目安とされています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
35以下	***	***	36以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：卵巣がん・消化器がん

SCC抗原

◇検査の説明

扁平上皮がんに対して陽性を示す率が高いです。また腫瘍の進行度をよく反映するので、経過や治療効果を判断するのに用いられています。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
1.5以下	***	***	1.6以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：子宮頸部がん・肺の扁平上皮がん

前立腺がん(PSA)

◇検査の説明

前立腺で作られる男性特有のたんぱく質(酵素の一種)で、前立腺がんが出来るとPSAが血液中に増えてきます。PSAは、前立腺肥大症や前立腺炎でも高くなりますが、PSA値が高いほど前立腺がんの疑いが強くなります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
2.5以下	***	***	2.6以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：前立腺がん・前立腺肥大症

ペプシノゲン

◇検査の説明

血液中にわずかに含まれるペプシノゲンを調べることにより、胃の老化現象である胃粘膜の萎縮度がわかります。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
PG I 70.1以上 または PG I / II 3.1以上	***	PG I 70.0以下 かつ PG I / II 3.0以下	PG I 50.0以下 かつ PG I / II 3.0以下	***

◇考えられる病気

萎縮性胃疾患

CRP(C-反応性蛋白)

◇検査の説明

急性の炎症や組織が壊れたときに、血液中に増えるたんぱく質の1つです。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~0.3	***	0.4~1.0	1.1以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合：胆石症・膠原病・細菌感染・心筋梗塞

ASLO(抗ストレプトリジンO)

◇検査の説明

溶血性レンサ球菌(溶レン菌)に感染した時、血液中に増えるたん白の1つです。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~200	***	201~300	301以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:リウマチ熱・糸球体腎炎・扁桃腺・猩紅熱

RA(リウマチ因子)

◇検査の説明

自己抗体であるリウマトイド因子(RF)を検出します。抗体が自分のからだを攻撃してしまう膠原病を調べる検査です。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
0~40	***	41~110	111以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:慢性関節リウマチ・肝臓病・全身性エリテマトーデス・心筋梗塞

CK(クレアチンキナーゼ)

◇検査の説明

心筋や骨格筋などの筋肉細胞のエネルギー代謝に重要な酵素です。これらの細胞が壊れると値が上昇します。

◇基準値

異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
50~226	***	49以下 227~299	300以上	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:心筋梗塞・心筋炎・筋ジストロフィー・多発性筋炎・甲状腺機能低下症・脳梗塞

Fe(鉄)

◇検査の説明

赤血球中のヘモグロビン合成に必要な物質です。

◇基準値

性別	異常なし	特に支障なし	要経過観察	要二次検査	要医療
男	53~168	***	41~52 169以上	40以下	***
女	43~157	***	36~42 158以上	35以下	***

◇考えられる病気

数値が高い場合:再生不良性貧血・急性肝炎の初期数値が低い場合:鉄欠乏性貧血・出血性貧血

最終更新日:2006年1月7日

協会TOP 保健部TOP

健康・医療の旬情報

- >>>[結核と感染症予防法](#) **NEW**
- >>>[健診と検診と胸の検査](#) **NEW**
- >>>[過去の情報](#)

健康診断のご案内

▶▶ 地域保健

- 基本健康診査
- 各種がん検診
- 骨粗鬆症検診

▶▶ 職場保健

- 定期健康診断
- 特殊健康診断
- 生活習慣病予防健診
- 各種がん検診

▶▶ 学校保健

- 結核検診
- 心臓病検診
- 貧血検査
- 尿検査

▶▶ 新生児・乳児の検査

- マスキリーニング

▶▶ 個人向けの検査

- 郵送大腸がん検診

その他

- 特殊健診逆引きガイド
- 郵送大腸がん検診のお申し込み
- 健康診断のお申し込み(事業場様)
- 健康診断のお問い合わせ
- 料金表(PDF)
- 論文
- 広報誌
- 関連リンク集



(財)山口県予防保健協会 保健部
〒753-0811
山口市吉敷3325番地1
TEL 083-933-0008
FAX 083-923-5567
netadmin@yhoken.jp